

2 June, 2009

第二章 古代における民族観（1）

1. ヘロドトスの二種類の民族とは何と何か？
2. ヘロドトスに寄れば、民族は地理的・文化的に区別される。文化的区分でヘロドトスについて最も重要だったのは何か？
3. ヘロドトスは民族が客観的存在だと認めていたが、同時にどのようなことに気付いていたのか？
4. ヘロドトスは民族の起源について、共通の祖先の子孫とする叙述ともう一つどのような説明をしているのか？
5. ペルシアによるアジア征服が民族の地位に影響を及ぼさなかった理由は何か？
6. ヘロドトスのエトノスやゲノスは後世の民族観とどのような点で異なっているのか？
7. 後世のギリシア・ローマ人がヘロドトスについて当惑したのは何についてか？
8. ヘロドトスの文化を中立的に評価する背景に何があったのか？
9. ヘロドトスの中立的評価のもう一つの背景にある政治的立場とは何か？
10. ヘロドトス以後のギリシア人著述家たちの「他者への関心」は何と結びついていたのか？
11. サイードの「オリエンタリズム」とは何か？
12. 後世のギリシア人やローマ人がヘロドトスを批判した三つの理由とは何か？
 - 1)
 - 2)
 - 3)
13. 大プリニウスなどローマ人著述家たちの民族観の特徴は？
 - 1)
 - 2)
 - 3)